

シュパツェンコーアを巡る思い出

一日唄友好促進に尽力した唄日協会副会長―

元日本人会会長（ジェットロウィーンセンター所長） 橋本 正義

1991年より日本人会婦人部の活動であったコーラスグループは、1993年にそのグループの名称をシュパツェンコーア（リーダー：永富先生）と名付け新たに活動を開始した。シュパツェンとは雀という意味であるが、「皆でピーチクパーチク楽しく歌いましょう」ということからこの名称になったということである。

当時、シュパツェンコーアの構成員は家内を含め約20名強で、またその活動は活発であった。毎週一回コーラスの練習をするほか、ウィーン19区のベートーベンハウスでの定期演奏会や日本人会の総会とかクリスマス会で合唱をして頂いた。ここに掲載の写真は、当時の日本人会クリスマス会で合唱するシュパツェンコーアの模様である。また、オーストリア側との歌の交流も盛んに行われ、例えばウィーンのヤマハホールやウィーン郊外のハインフェルトで日唄の合同演奏会が開催されたりした。テレビのORFに出演したこともある。

この合同演奏会等の実現のためオーストリア側とのパイプ役になってくれたのは、当時唄日協会副会長のシュレック氏であった。シュレック氏は半世紀以上日本で暮らしていたこともあって日本語は大変流暢であり、江戸弁も駆使するという面では日本人以上の日本人であった。



このシュレック氏には上記の演奏会以外でも日本人会として大変お世話になった。1993年に日本人会は予てからの願望であったフェライン化（オーストリア集会法に基づく団体化）が実現し、漸く任意団体という形態から脱することが出来たが、この実現に際してはシュレック氏による当局への働き掛けが大きく功を奏した。また、唄日協会との合同クリスマス会でもオーストリア側とのパイプ役になってくれた他、自らサンタ役となって会を盛り上げてくれたりした。

このように日唄友好促進のため積極的に活動してくれた同氏が数年前にお亡くなりになったと日本で聞いたときは大変悲しくもあり、残念でもあった。日本人会が日本人同士の連帯感保持に留まらず、今後ともオーストリア側との交流を一層深めて行かれることを願っている。

<橋本 正義（ハシモト マサヨシ）>①当時の所属はジェットロウィーンセンター所長、②滞在時期は1992年8月～1995年7月、③ウィーンには妻と共に平均年一回程度旅行。また、2007年に長女がオーストリア人と結婚し、娘夫婦と孫は現在スイスに滞在中。